



児童発達支援・放課後等デイサービス における支援プログラム公表

児童発達支援・放課後等デイサービス めばえ

令和6年11月22日作成

＜事業所における基本情報＞

- ①事業所名：児童発達支援・放課後等デイサービス めばえ
- ②作成年月日：令和6年11月22日
- ③事業所理念：子どもたちの将来を見据えた早期療育と専門療育を提供する。1人1人に寄り添った、オーダーメイドの療育の提供。ともに伴走し、すべての子どもの可能性の芽を見つけ育む。
- ④支援方針：言語聴覚士・作業療法士・理学療法士・保育士が連携し「運動」と「ことば」を主軸とし、科学的根拠に基づいた個別プログラムと集団プログラムの実施。「みんなと同じ」ではなく、「楽しくできた」を積み重ね、言語面と身体機能の向上を図る。
- ⑤営業時間：10時～18時
- ⑥送迎の有無：送迎あり

<支援内容>

⑦本人支援の内容と5領域の関連性

運動・感覚

粗大運動や体操などボディイメージの発達と身体機能の向上を目的に行う。具体的にはトンネルくぐりなどで物と自分の距離を測ることや身のこなし方などを習得し、ボディイメージの発達を図る。また、手のひらでしっかり体重を支えることで、手のひらの発達を促します。

平均台やサーキットを通してあえてバランスを崩す動きを取り入れることで、バランス感覚や反射の発達を促す。自分の限界を安全な環境の中で探り成長することができるよう様々な動きを取り入れた運動あ

<支援内容>

そびを提供しています。

また、グッと全身に力を入れるひっぱり遊びや、スピード感覚などの前庭感覚を取り入れたシーツブランコや滑り台遊びなども行い、感覚統合を行っています。

協調運動など自分の正中線を越える動き、非対称な身体の動きを出せるよう原始反射の統合を図っています。

感触遊びでは識別覚を育てるために、たくさんの種類の素材や物に触ることで触覚刺激を取り入れた遊びを行っています。はるさめ遊びや小麦粉、片栗粉、氷や水遊び、絵具など手のひらや足の裏、全身で触覚刺激を感じ取ることができるように支援しています。



<支援内容>

識別覚が育つことで原始的な感覚が抑制されるため、感覚過敏も少しずつ軽減していくことができます。

また、手袋をして触る、自分の好きな感触で遊ぶなど自分にあった方法や手段と一緒に模索しています。

すべての遊びやプログラムに、触覚、前庭覚、固有覚を取り入れながらすすめています。



<支援内容>

健康・生活

歯みがきプログラムなどを通して健康な生活に必要な知識ややり方を身につけることができるように取り組んでいます。

毎日の健康観察において、体温測定やケガの有無、皮膚の状態などのチェックを行い、身体の管理観察・助言をしています。また、日常生活の中で頑張って座る、運動するだけでなく、リラックスして安楽な姿勢をみつけ余暇を過ごすことにも着目し、快適に過ごせる姿勢を見つけます。快適なリラックスできる姿勢の中で好きなことを取り組めるよう座位姿勢などの観察、助言を行っています。

<支援内容>

食事や水分摂取など、おやつやお弁当を通して相談、助言をしています。トイレトレーニングなどの排泄に関しても、できるだけ一人一人のペースに合わせて行っています。

認知・行動

集団プログラムを通して、非認知力などのやり抜く力や他児と協力して取り組む力を育てています。簡単なルールの中で遊び、鬼ごっこやすごろくなど集団での活動を通して社会性の発達を支援しています。

認知面では大きい、小さいなどの概念理解やことばの理解など個別訓練や机上課題を通してその子にあった方法で発達段階に合わせて取り

<支援内容>

組んでいます。旗揚げゲームやストップゲームなどの音楽遊びなどを通して聞いて動くこと、見て行動することで視覚や聴覚からの認知機能を動き、行動へとつなげていきます。

真似っこ遊びなど模倣する遊びを取り入れ、静止姿勢から動きの真似、リズムのある動きや時間的要素のある遊びへとつなげています。

ビジョントレーニングを通して、跳躍性の眼球運動や目と体のチームワークの形成に取り組んでいます。



＜支援内容＞

言語・コミュニケーション

集団プログラムの中で、口腔運動でのことば遊びやごっこ遊びを通して、ことばの発達とやりとりを支援しています。

季節に合わせたごっこ遊び（例：いもほり遊びや餅つき遊び）や生活に沿ったごっこ遊び（例：お買い物ごっこやパン屋さんごっこなど）を行い、日常生活でのやりとりに般化することができるよう様々な経験を積み重ねることができるように支援しています。また、お口の運動を行いながら口腔機能の向上を図り、明瞭な発音や発声ができ、話しやすいことばの土台を作ります。

<支援内容>

個別言語訓練を通して、言葉の発達の支援と構音機能訓練を行っています。

自由遊びの中で、インリアルアプローチなどの方法を用いて寄り添い、三項関係を築きコミュニケーションの土台をなる対人面の向上を支援しています。

同年代の児童同士の関わりを遊びを通して行い、言葉の発達とコミュニケーションを支援します。



<支援内容>

人間関係・社会性

簡単なルールのある遊びを通して順番やルールの理解を進め、同年代のお友達と一緒にルールの中で取り組むことができるよう集団プログラムを実施しています。ごっこ遊びや動き模倣の真似っこ遊びなどを通して、模倣行動の支援をしています。ごっこ遊びではパン屋さんやお寿司屋さんなど身近なお店の他、果物の収穫遊びや乳搾りなどのごっこ遊び等の季節に関するごっこ遊び、信号を渡る交通安全のプログラムや電車ごっこや歯磨きプログラムなど生活に関する遊びを取り入れています。自由遊びの中では、ブロックやカプラを使って見立て遊びをするなど対大人、対同年代のお友達と一緒に遊ぶことで協同遊びへと発展できるよう支援しています。

＜支援内容＞

⑧家族支援

ご家族の悩みや不安に対して相談支援を行う。

事業所での様子を随時視覚的にわかりやすい写真を添えて伝え、情報共有を図る。利用できる福祉資源などの情報提供を行う。

行事などを通して、きょうだいも施設のプログラムに参加し、一緒に楽しむことができるよう夏祭りなどの季節の行事を開催し、きょうだい児に対する悩みや相談の援助を行う。



＜支援内容＞

⑨移行支援

保育園や幼稚園の入園にむけ、集団行動や日常生活動作の習得を支援する。また、就学に向け1人1人の強みで苦手な部分をカバーすることができる方法や手段を一緒にみつけていく。

保育園や幼稚園、学校と連携し、次のステージへの移行をスムーズにできるよう問題点や課題の共有を行い解決策を考えていく。

地域の行事への参加などを通して、地域の中でつながりを感じることができるよう支援していく。



<支援内容>

⑩地域支援・地域連携

保育園・幼稚園との連携を図り地域の中で生活すること、地域の中で育つことを見守り、必要に応じて情報共有し支援の方法について助言する。各関係機関と連携し、担当者会議に参加し情報共有を行う。

⑪職員の質の向上に資する取組

専門的な知識の共有と支援目的とプログラム立案に向けた評価内容の共有を理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等で行う。保育士とセラピストと共に遊びを通した科学的根拠に基づくプログラムの立案を行う。運動やことばに関する研修を適時実施、外部研修も取り入れる。ケースカンファレンスを毎月行い、目標設定と支援内容について共有する。

<支援内容>

⑩主な行事等

季節に応じたプログラムを開催し、大規模な行事としては夏祭りを開催している。保護者やきょうだいと一緒に参加できる内容で取り組んでいる。

節分やひな祭り、夏は水遊びやスイカ割り、夏祭り、秋は収穫祭や秋の味覚狩り遊び、お月見、冬にはクリスマス会などを実施している。

